



ヤリイカ対馬暖流系群 令和3年度資源評価結果

生物学的特性

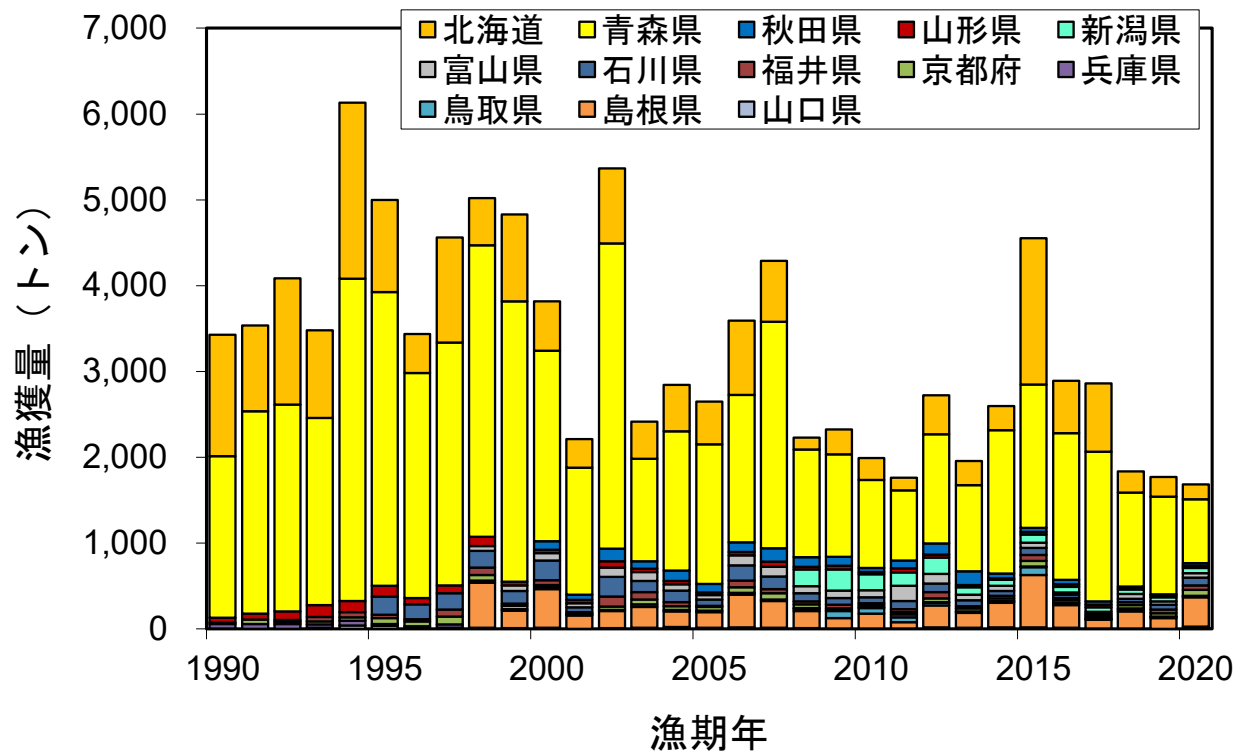


生物学的特性

- 寿命: 1年
- 成熟開始年齢: 約1歳
- 産卵期・産卵場:
1～7月、北海道宗谷地方～山口県沿岸各地
- 食性:
外套背長50mmまでは主にカイアシ類、60mm～150mmではカイアシ類、オキアミ類、アミ類、170mm前後からは小型魚類
- 捕食者:
海産哺乳類、大型魚類等

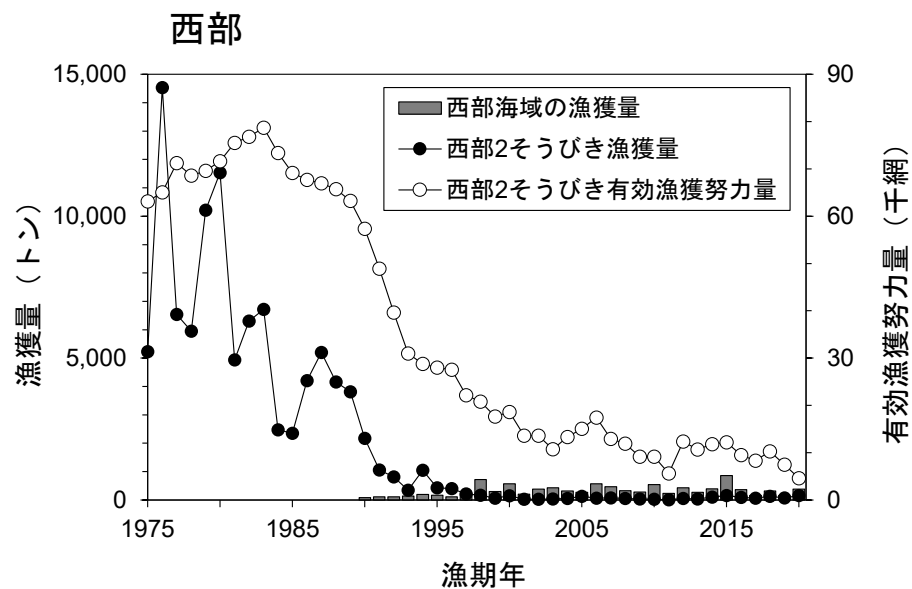
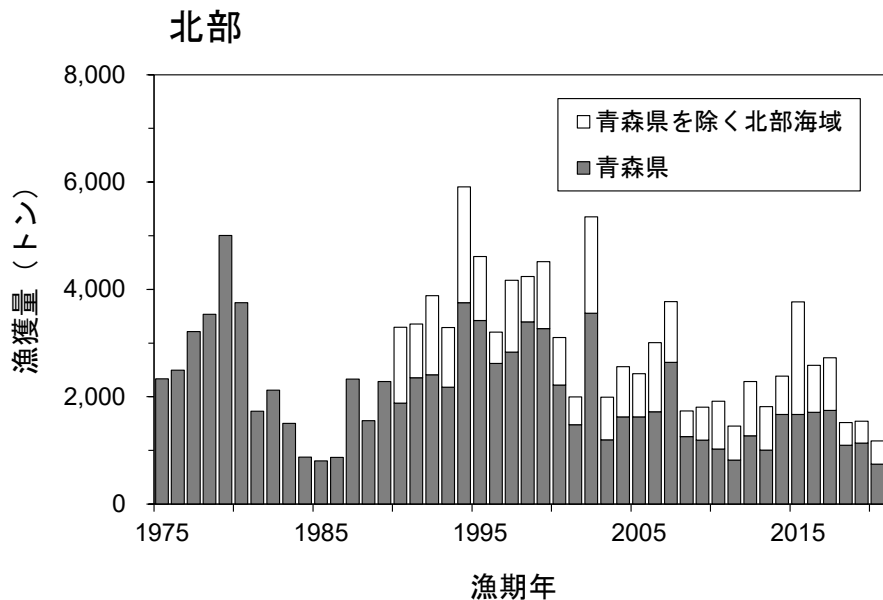
- 主に産卵群を対象とし、盛漁期は10月～翌年3月
- 漁期は8月～翌年7月
- 北部海域は北海道～石川県、西部海域は福井県～山口県

漁獲の動向①



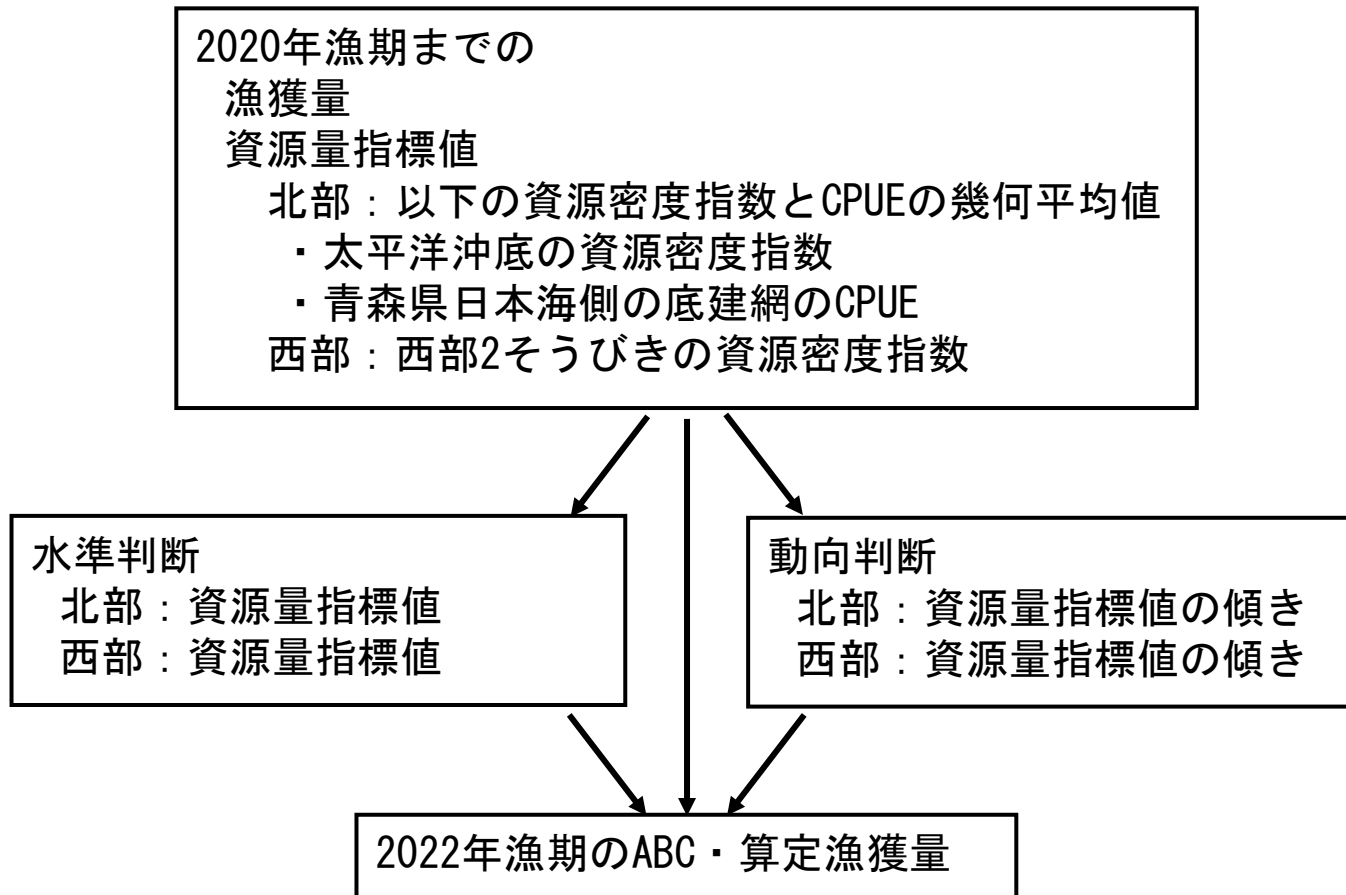
- 青森県および北海道が漁獲の中心
- 1990年代の漁獲量は3,000トンを上回ったが、2000年代の漁獲量は2,000～3,000トンで推移
- 2020年漁期の漁獲量は1,684トンで前年を下回った

漁獲の動向②

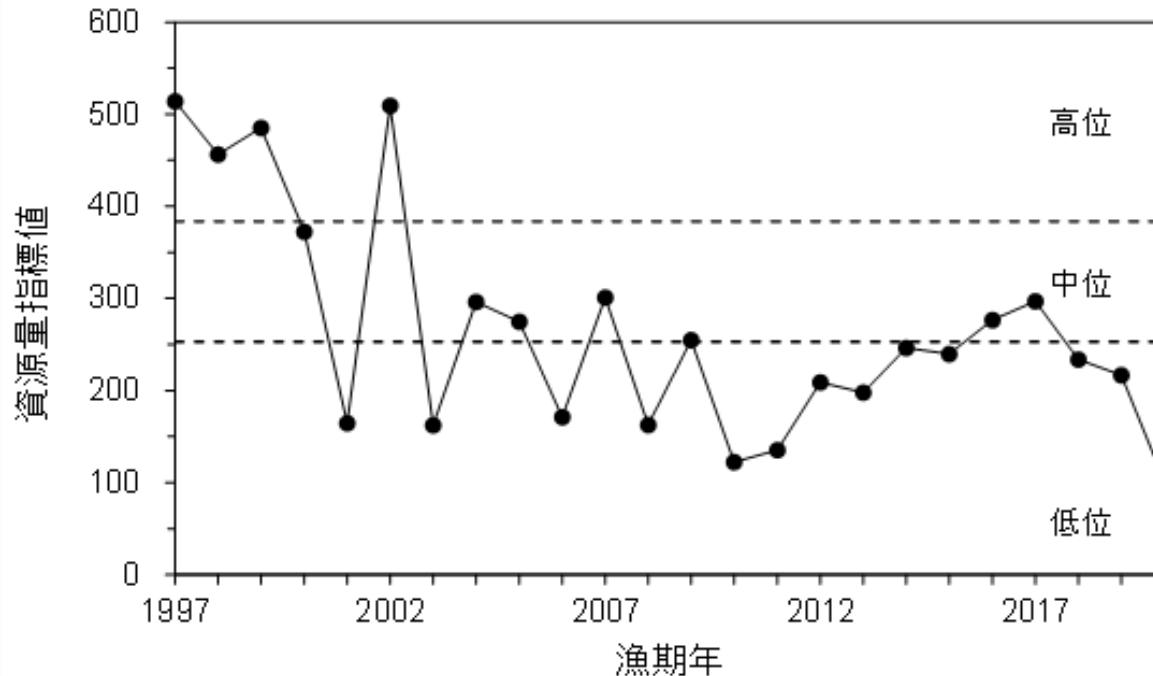


- 北部の漁獲量は1990～2000年漁期は3,000～4,000トン、2000年漁期以降は2,000～3,000トン前後で推移
- 西部の漁獲量は北部に比べ極めて少ない
- 西部2そうびきの漁獲量は1976年漁期には最大14,000トンを越えたが、その後大きく変動しながら減少し、1998年漁期以降は200トンを下回った

資源評価の流れ



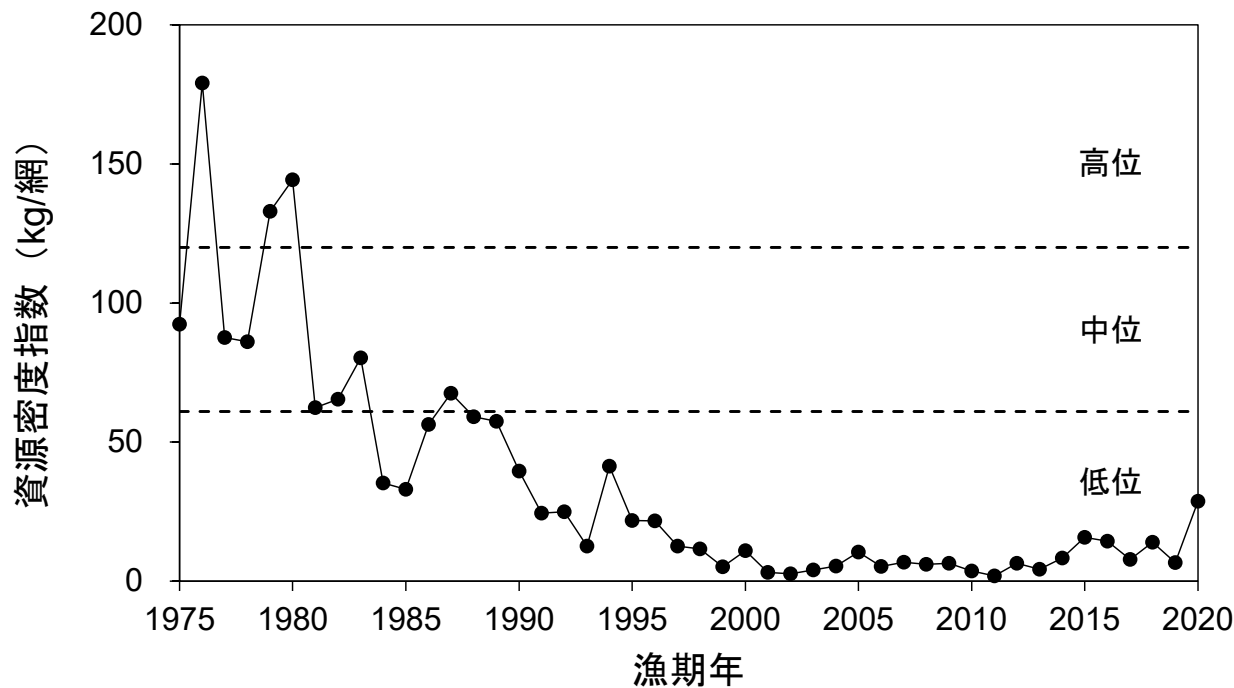
資源の動向①



※水準区分—低位／中位：資源量指標値253—中位／高位：資源量指標値384
(1997～2019年漁期の資源量指標値の最大値514と最小値122の間を3等分して算出)

- 北部の資源量指標値：太平洋沖底の資源密度指数と底建網の単位努力量辺りの漁獲量（CPUE）の幾何平均値
- 資源水準：2020年漁期の資源量指標値は101.8で「低位」
- 資源動向：直近5年間の資源量指標値の推移から「減少」

資源の動向②



※水準区分 低位／中位：資源密度指数120kg/網 中位／高位：資源密度指数61kg/網
(資源量指標値の最大値179kg/網と最小値2kg/網の間を3等分して算出)

- 西部の資源量指標値：西部2そうびきの資源密度指数
- 資源水準：2020年漁期の資源密度指数は28.8kg/網で「低位」
- 資源動向：直近5年間の資源密度指数の推移から「横ばい」

資源評価のまとめ

- ヤリイカ対馬暖流系群全体の資源水準は低位、動向は減少
- 北部は太平洋沖底ならびに青森県日本海側の底建網漁業、西部は西部2そうびきの資源密度指数を資源量指標値として海域別に資源状態を判断した

2022年漁期ABC

管理基準	Target/Limit	2022年漁期 ABC (トン)	漁獲割合 (%)	F値 (現状のF値からの 増減%)
0.7・北部Cave3-yr・0.64 0.7・西部Cave3-yr・1.45	Target	791	—	—
	Limit	989	—	—

- ・ ABC算定規則の2-1) により、 $ABC_{limit} = \delta 1 \cdot Cave3\text{-yr} \cdot \gamma 1$ で計算
- ・ $\delta 1$: 北部、西部ともに0.7 (低位水準での標準値)
- ・ Cave3-yr : 2018年漁期～2020年漁期の各海域漁獲量平均値
- ・ $\gamma 1$: (0.64、1.45) 資源量指標値の直近3年間の動向から算定される係数
- ・ 系群のABCは海域ごとに算定したABCの合計値